

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073300313
法人名	株式会社 太平洋
事業所名	グループホーム ファミリー
所在地 (電話番号)	福岡県宗像市平井1丁目19-1 (電話) 0940-37-0004

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	平成 19年 10月 22日

## 【情報提供票より】(19年 6月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.3 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建て	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	食費に含む 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	摩利支病院 蜂須賀病院 大林歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成13年に開設。自然が多く残る環境にホームはあり、地域密着型サービスの導入を機会にホーム名を“ファミリー”と改め、気分も一新、職員が丸となって新たなホーム作りに取り組んでいる。新しい管理者や新人職員の教育・研修を統括マネージャーとサブマネージャーがサポートすることで、お世話型介護から入居者本位のできることを活かした介護へ取り組むという職員の視点改革にも力を入れている。職員のアイデアを大切に、そのアイデアをケアに活かすことで、ご利用者の表情に良い変化が見られたり、職員のやりがいにもつながってきている。玄関の木製ドアを自動ドアへ改修し、明るく開放感のある雰囲気のあるホームとなっているが、ご家族の持って来られるお花が、ホームをさらに明るくしており、まさに、ホーム名にふさわしい、みんながファミリーとなれるよう取り組みを続けているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①換気・空調への配慮から、1階倉庫内の換気扇工事、2階喫煙所への空気清浄機の設置、生活スペースへの温度・湿度計の設置が行われた。②成年後見制度の活用として、ご家族への制度内容の説明と共に、ホーム相談室へ資料を常備した。③ホームに閉じこもらないように買い物や散歩・外食等の機会を多くするように取り組みが開始された。④日中ホームに鍵をかけないようにまずはテンキー式のドアに改造を行った。⑤入居者主体の介護計画のために、センター方式を導入した、等。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新人職員が多いこともあり、統括マネージャーとサブマネージャーで原案を作成し、職員一人一人にコピーして配布、その後ミーティングで話し合いをしたり、運営推進会議において議題に取り上げ現状の公開等を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご家族代表・老人クラブ連合会会長・民生委員地区会長・市の職員の参加で今年度3回開催。1回目の会議でホームの環境整備状況・備品整備状況を報告して、外部評価の結果も踏まえ、住み良い環境になるよう、玄関の改造、倉庫・喫煙所の換気対策のための換気扇工事・空気清浄機の設置など改善したことを3回目の会議で報告した。また入居後身体機能の低下や認知症の進行が気になるとの意見から、散歩や買い物等に出かける機会を増やしたり、リハビリの継続、新聞・週刊誌等の準備をするなどの取り組みを行った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ご利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動や退職などご家族に電話でお伝えしたり、来訪時や運営推進会議出席時に口頭でお伝えしている。金銭管理については、毎月、明細書と領収書のコピーをご家族などに郵送している。ホーム行事のときにご利用者とご家族に集まってもらい、サブマネージャーと一緒に食事をしながら話し合える時間を作っている。家族の不安に思っていることに対して、管理者がその窓口になっていること、意見や苦情は運営推進会議の議題に取り上げ助言を頂き、改善する努力をすることもお伝えしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方との交流は以前はあったが、職員の交代により、現状は交流までではできていない。新体制になったことで、まずは地域の方と顔なじみになることに力をいれ、外出時には挨拶をしたり、自治会長から地域の活動を聞き、参加できるよう働きかけを行っていく予定である。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時、法人代表者の思いを基本にしながらも、地域に開かれたホームとなるよう、統括・サブマネージャーと共に独自の理念を作成した。理念・『①「ファミリー」はご入居者・ご家族の皆様と私達スタッフが心のふれあいを大切に“家族”でありたいと考えています。②私たちは、ご入居者にとって『安心、安全である事が当たり前の事と捉えられる生活環境』作りを目指します。③私たちは、心からのケアを提供する為に知識の習得と技術の研鑽に努めます』という開設時作成した理念を掲げている。地域密着型サービスになってから、あらためて理念を見つめ直すことはまだ行ってない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていきたいとの思いがあり、今後は、職員全員で、新たな理念の作成を予定している。地域密着型サービスとしてのグループホームの役割を考えながら、さらに事業所独自の理念が作られていかれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関とスタッフルームに理念を掲示し、職員がいつでも理念を見ることができるようにしている。ミーティングの時に「家族として安心して寄り添えるように、否定するような言葉かけをしないこと、人生経験豊かな利用者に尊敬を持って接する」等、より理念を具体的に、統括マネージャーとサブマネージャーが職員に話しをしているが、全員が実践できるよう、取り組みの最中である。	○	ミーティングの中で理念についての話し合いを続けているが、職員の交代が続き、全職員が日々のケアの中で実践できているとまでは言いがたい状況にある。全職員が、理念を共有し、日々の実践に活かしたケアが行われるよう、今後も研修や個人面談などの取り組みを続けていってほしい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は、地域の方との交流があったのだが、職員の交代により、地域の方のお付き合いが少なくなってしまった。散歩や買い物の時に、挨拶などはしているが、「地域の方との交流」までにはいたっていない状況である。	○	職員も、新体制になったことで、まずは地域の方と顔なじみになることに力をいれ、外出時には挨拶したり、自治会長から地域の活動を聞き参加できるように働きかけを行っていく予定である。また、地域行事の把握のための情報収集を行い、ご利用者が参加できるような行事があれば参加したり、地域に開放する形で地域の方が事業所に訪れていただけるような場面作りができていくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価を行う時点で、新しい職員が多かったことから、統括・サブマネージャーが自己評価表の原案を作成し、職員に1部ずつコピーを渡し、評価項目についてミーティングで話し合いを行い、職員の新たな気づきにもつながっている。前回の外部評価直後に改善に向けた取り組みを開始し、運営推進会議でも自己評価、外部評価結果の報告を行った。具体的な改善計画も作成し、運営者、管理者、職員一丸となって改善に向けた取り組みを積極的に進めてきた。玄関を明るくするために施設の改修工事なども行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・協力医療機関の医師・地域住民代表として老人クラブ連合会会長・民生委員協議会地区会長・市の職員等の参加で、3～4ヶ月に1回運営推進会議を実施している。前回の外部評価の結果や、運営内容、ホームでの取り組み等について報告を行い、出席者の意見を踏まえてケアの改善も行われている。	○	会議へのご利用者の参加は促してしていなかったことから、今後、ご利用者の意見も反映できるよう、会議を二部構成にして、はじめにお茶会などを行い、会議にさりげなく移行したり、事前に入居者に意見を聞いておくなどの対応をして、場の雰囲気慣れていただく工夫を行ってみるのも良いと思われる。今後は、2ヶ月に1回の開催を予定している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	統括マネージャーは市の担当者に運営推進会議のあり方を相談したり、認知症ケアのことについてアドバイスを頂いたり、ホームの現状を報告するなど、日頃から市の窓口を訪れたり、民協役員会や地域活動を通じて、密に連絡を取り合っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	身寄りのないご利用者がホームで亡くなられたときに、葬儀の行い方など苦労した経験があり、地域権利擁護事業や成年後見制度の必要性をホーム側が実感した。職員には勉強会を通じて説明したり、ホーム内に資料を常備するようにした。運営推進会議でも議題に取り上げ、会議に欠席されたご家族へは文章で伝えるなど、制度の理解を深めていただく努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動や退職等は、ご家族に電話でお伝えしたり、来訪時や運営推進会議出席時等に口頭でお伝えしている。金銭管理については、毎月、明細書と領収書のコピーをご家族などに郵送している。事情があって、来訪の頻度が少ないご家族から、「訪問時に笑った顔を見ることができない」という声も聞かれ、日頃の暮らしぶりや、笑顔で暮らしている様子を、十分に伝えることができていない状況にある。	○	以前、定期的に“ふれあいだより”を発行していたが、職員の交代等の理由で現在発行できていない。ホームとしては、日頃、楽しそうにされている瞬間瞬間の写真等を掲載したホームだよりを、今後は、年2回を目標に再開したいと考えている。ご家族個々の知りたい情報をこれからも把握し、さらに安心につながる情報提供を行っていきたいと考えている。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム行事のときに、ご利用者と家族に集まってお話し、サブマネージャー、職員も一緒に食事をしながら話し合える時間を作っている。職員の入れ替わりにもない、家族が不安に思われないよう、相談窓口が管理者に代わったこともお伝えしている。意見・苦情は運営推進会議の議題に取り上げ、助言をいただき、改善する努力も行われている。重要事項説明書に公的相談窓口である市の介護保険課や国保連の連絡先も記載し説明もしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期、職員の入れ替わりが多かったことで、ご利用者やご家族に不安を与えることもあり、その対応策として、状況に応じて不定期にサブマネージャーが職員の個人面接を行うようにした。職員は、不安などを言いやすい状況になり、ストレスの原因を把握するとともに、励ましの言葉なども職員に伝え、精神的フォローを続けている。人手不足のときは系列の施設に応援を依頼している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すということはない。個人の能力を見極め仕事量の配慮をしたりしている。裁縫の得意な方、ダンボールを使って小物を作るのが得意な方等、一人一人の得意分野を把握し、力を発揮していただいている。職員が生き生きと働けるよう、職員のキャリアアップにも支援をおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	統括・サブマネージャー、管理者が人権尊重の大切さを職員に伝えている。外部研修への参加も検討しており、ミーティングの時間に個別の具体例を挙げて、人権を尊重することを職員全員で話し合っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月の新体制になり統括・サブマネージャーが、職員、特に管理者の育成を行っている段階である。法人内外の研修を受けたあと、伝達研修も行っているが、段階に応じて育成するための計画までは作成されていない。	○	一人一人の職員の能力を見極めて、段階に応じて育成するための計画を作成していくことで、職員の質の確保・向上に向けた取り組みに結びついていくことを期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統括・サブマネージャーは認知症ネットワーク事業の運営スタッフの一員であり、連絡協議会の運営協力委員でもあり、地域の同業者との交流も盛んに行っている。各研修会の運営や参加も行っており、他のグループホームとの相互訪問も始まり、サービスの質の向上に向けて、積極的に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の気持ちを大切にして、入居前にホームを訪問していただき、個別に説明等を行っている。ご本人の不安な気持ちの背景を少しでも理解するために、入居後も、ご本人が環境に慣れられるまで、家族とも相談しながら職員が寄り添って援助している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から、ミニ菜園の土の作り方や、野菜の作り方などを教えていただくこともある。職員が、ご利用者からねぎらいの言葉をかけていただくこともあり、職員も感謝の気持ちをご利用者伝えていますが、介護度の重度の方が多く、ご本人にできることはしていただいているが、喜怒哀楽を共にして一緒に生活しているという関係作りまでは達していない状況である。	○	理念にも掲げている、『「ファミリー」はご入居者・ご家族の皆様と私達スタッフが心のふれあいを大切にする“家族”でありたいと考えています。』という言葉、どのようにすれば実践していくことができるのかを、職員全員で話し合い、一つずつでも実践していかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用し、ご本人の思いや意向の把握に努めているが、全利用者について把握できているとは言えない。特に、意思疎通の困難な方の思いの把握が難しく、職員同士で把握できている内容や量にも差が見られるため、ミーティングの場を活用し、職員全員で共有できるように努めている。ご本人の意向が聞き取れない場合、これまでの生活歴などを家族にも確認している。ご本人の望む暮らしは何か、さらに今後も意向の把握に努めていきたいと考えている。	○	入浴、食事、ドライブなど、さまざまな生活場面において、ご利用者の微妙な表情の変化、仕草、気持ちをキャッチし、記録に残す。この日々の繰り返しの観察の中で、少しでもご利用者の真実の気持ちに近づくことができ、それが、結果的に、職員の方々のさらなるやりがいにつながっていくことを期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用して、2～3名の職員で1名の情報収集を行い、計画作成担当者が、ご本人・ご家族の意向を確認してプランの原案を作成しているが、課題・目標がケアスタッフサイドの視点で作成されており、できないことを主体に課題上げられている。ご本人の生活への意向が把握されていないプランもみられ、サービス内容に実際に行っているケアのすべてが記載されていない。センター方式の導入により、利用者本位の視点で、情報収集を行っている段階である。	○	課題・目標の欄には、ご利用者1人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた『その人らしく暮らし続ける』ための個別・具体的な課題・目標が記載され、その方らしく地域で生活できるような視点が盛り込まれるとともに、ご利用者、ご家族や関係者と話し合う場を大切にし、多くの方の気づきや意見を計画に反映していかれることを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しは3ヶ月ごとに行っており、状況に応じて随時見直すこともされている。全利用者について月1回程度ケアの変更の必要性はないか等、職員ミーティングのときに確認を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、ご利用者・ご家族に安心して暮らし続けていただくために、通院介助や家族が来られるまでの入院時の付き添い、入院中の洗濯、透析のための通院介助も行われている。買い物などの外出支援等を行っている。事業所内に看護師がいることで、医師との連携を密にし、入院期間を短くする取り組みなども行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、協力医療機関以外でもかかりつけ医を希望される場合は、受療していただいております。ホームに勤務する看護師が受診に同行し、担当医と話しをするなど連携も取れている。家族の希望で週3回の透析通院介助も行っている。協力医療機関に以前勤めていた看護師がホームで勤務しておられるため、連携が取りやすい状況にあり、医師からの信頼もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態が変わった場合、重度化したときにどう対応するか、職員(看護師)が利用者・家族と話し合いをしている。職員(看護師)は協力医療機関である病院に以前勤めていた経験があり、医師との連携がとりやすく相談もしやすい。状態が悪化した場合などは、家族の同意を得て主治医の先生に連絡をし入院に繋げるなどの対応もしている、また看護師である職員が、その日のご利用者の体調によって夜中まで付き添うこともある。入居時にホームで終末期を迎えたいと希望されていても、その後、状態が悪化した場合、入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをし意思の確認をするようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の今までの生活を否定するような言葉かけが見られるときがあり、繰り返し注意をしたり、ミーティングで勉強会を行っている。個人情報保護法については少しずつ理解が深まってきているが、書類の管理や情報管理など具体的なことは今後研修を行っていく予定である。	○	誘導の声かけや介助は、ご利用者の自尊心・羞恥心に配慮しさりげなく行われ、興奮状態のご利用者にもご本人の意思を尊重しやさしく上手に対応するなどされているが、全職員が実践できるような取り組み、研修などを期待したい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が、その日をどのように過ごしたいか、ご本人のペース・暮らしぶりを把握し、日課以外の時間は希望に沿って、横になっていただいたり、洗濯物たたみをしたり、テレビを見るなどそれぞれ自由に過ごしていただいている。日課についても無理強いはせず、体調や表情などにも配慮し、食事の時間をずらすなどの対応も行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1年前から委託業者に依頼して調理を行ってもらっている。生活歴や残食の状況から好みのものを把握し、月1回給食会議が開かれ検討されている。委託業者との契約上感染防止のため、調理に他の方が参加できないシステムになっているため、ご利用者が調理に参加できず主婦としての力が発揮できていない現状はある。下膳できる方にはお手伝いしていただいている。	○	今までは食事介助が中心となっていたが、一部の職員は一緒にテーブルで食事をするようにしている。また、食事を楽しんでいただけるよう、食事の介助をしながら声かけをするなどの配慮がされているが、食事に関する一連の作業を通じたご利用者の力の発揮が充分出来ていないといえない。ご利用者の持っている力が少しでも発揮できるよう今後も検討を続けてほしい。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階が水・土、2階が火・金曜日で週2回の入浴と決められている。入浴日以外に希望が出た場合は別の階で入浴していただくことは可能である。週2回の入浴のため、それ以外の日は、下用のタオルを準備して、陰部清拭などを行っている。	○	ご利用者1人ひとりの入浴への希望や意向の把握が不十分で、職員の人員の関係で入浴回数が限られているということではあるが、入浴回数やシャワーでの対応が出来ないかなどを検討するとともに入浴を楽しんでいただけるような配慮を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物やおしぼりたみ、花の水替えなどの役割をもってされている方の支援をしたり、楽しみごととして散歩や外にある椅子にお連れするなど外に出る機会を増やすような取り組みを行っている。男性のご利用者に役割や楽しみごとを持っていただく働きかけとして、男性のご利用者だけで、父の日に外出する計画をたて、実行したところ、日頃見られないような行動や表情・発言がみられた。	○	今後も、一人一人の生活歴、持っている力を引き出しながら、新たな取り組みを予定されているということで、1人ひとりがその人らしく暮らし続けられるように、男性にも個別の役割を持っていただいたり、気晴らしの支援が行っていく予定である。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出することに意欲を示さないご利用者に、まずは1階のフロアに降りることから進め、次に庭の椅子へお連れし、徐々に慣れていただき散歩にでる機会を増やす取り組みが行われているが、積極的に外出するまでにはまだ至っていない。	○	ご利用者が入居する以前に行かれていた外出先の把握や、地域でどのような暮らしをしておられたかの把握をしていくとともに、徐々に散歩の回数を増やし、入居前の暮らしが継続されていくような取り組みが行われることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前が道路という事もあり、玄関の自動ドアがテンキー式になっている。日中もご利用者が自由に入出入りすることはできず、ご利用者の行動を見ながら、職員が開錠している。	○	職員が鍵をかけない暮らしの大切さを理解して、安全確保に留意しながらも、玄関を自由に出入りできるようなケアの実践が行われるよう、今後も検討を続けていってほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災マニュアルがあり、年1回は防火管理者を中心に避難訓練が行われ、去年は数回通報訓練も行われている。地域に対して災害時の協力の依頼は特に行われておらず、災害発生時に備えて、食料や飲料水、簡易トイレ、寒さをしのぐための物といった物品もまだ準備されていない。	○	災害時における地域の非難場所の確認を行うと共に、地域の方からの協力が得られるように、一緒に避難訓練を受けられるような取り組みを検討されてはいかかかと思われる。災害に備え、どのような備品が必要か、今後、場の想定をしながら検討を続けていかれることを期待したい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により1人ひとりの摂取カロリーが決定され、ご飯の量などで調整がされている。摂取量の制限がある方には、大きな容器に盛ることで量を多く見せるような工夫を行っている。毎食後、食事量のチェックを行い、水分はボトルに入れて量のチェックも行われている。利用者の好みや嚥下・咀嚼力に合わせてきざみにしたり、とろみをつける等の対応もされている。魚が苦手な方には形のまま出さず小さく切って形を変えるなどの工夫もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家族が持ってこられたお花が飾られたり、季節に合わせた手作りの貼り絵が壁に飾られている。1日を通してオルゴールのバックミュージックが小さくかけられ、職員が足音を響かせないような対応もされている。西日が強い場所には、青色のプラスチック板を窓に張り、まぶしくないよう配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるよう、家族とも話し合いながら、使い慣れた椅子やリクライニングチェア、テーブルなど持ち込んでいただいている。		